

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100919		
法人名	医療法人社団 白梅会		
事業所名	グループホームハーモニー	ユニット名	1階
所在地	静岡県浜松市西区大人見町3011番地の1		
自己評価作成日	平成29年8月7日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail/2016_022_kani=true&lgvosyoCd=2277100919-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハーモニーのケア方針「1日でも長く普通の生活を」を掲げ、住み慣れた地域で自由でゆったりとした、心地よい生活を送ることが出来る様に取り組んでいる。毎日の散歩や月1回の外出リハビリで戸外へ出たり、個々の趣味が継続できるようにサポートしている。「ここでの生活は楽しい」と思っていただけのようなグループホーム作りを目標に取り組んでいる。利用者一人一人の生活歴を把握しながら、支援方法を考えている。出来ることは自分で行い、役割を持ち自立した生活を送る事が出来る様にサポートしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護理念である「一日でも長く普通の生活を」を掲げ、日々「普通とは何？」と職員間で考える活動を行っている。周りには当グループホーム以外民家はないが、毎日の散歩で事業所の外に出ることを心がけており、散歩公園は利用者の憩いの場所となっている。職員、入居者は笑顔で過ごすことを目指し、「ここに来てよかった」と思えるような事業所を目指している。昨年は初めて運営推進会議の中から出された意見から玄関先にクリスマスイルミネーションを設置し、入居者をはじめ隣接する法人他事業所の利用者も見学に訪れ大変喜ばれた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場理念と介護理念を職員室に掲示し、毎朝のミーティング時に読み上げて理念の共有をしている。利用者のバックグラウンド(生活歴)を大切にしている。	職員理念である「一日でも長く普通の生活を」を基本に職場理念「人生の先輩に敬意を忘れない介護」「職員のレベルを上げる」を掲げ、「普通って何？」を日々考えるようになったことで、職員間の意識も変わってきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭り等地域が行なう催し物に利用者が参加されている。月1～3回大正琴や図書、踊りなどの地域ボランティアとの交流がある。地域の方が週2回ボランティアに来ている。	地域の行事に利用者が参加したり、地域の方が裁縫やフラワーアレンジメント、読み聞かせのボランティアに来てくれている。デイサービスの利用者が玄関先の花を見て立ち話をしていくようになってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して下さった方々との交流や、年2回の家族交流会にて普段の様子や活動を見て頂き、認知症の理解や協力をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。自治会長、婦人会長、民生委員、市職員、地域包括職員、家族代表、施設長、主任、介護職員が参加し、近況を報告し助言を頂いたことはサービス向上に活かしている。	運営推進会議は近況報告だけにとどまらず、参加者からいろいろな提案が上がるようになった。クリスマスのイルミネーションや利用者全員のオレンジシール登録など、積極的な意見も出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや判断に困るような難しいことについては西区の介護保険課に連絡して助言を頂いている。市の長寿保険課職員に運営推進会議に参加して頂いている。	運営推進会議への出席だけでなく、書類上の不明点はすぐに行政に連絡して助言をもらうようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや勉強会等で学び、意識の共有をしている。スピーチロックやドラッグロックも含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は玄関前の段差や車の往来がある為やむを得ず施錠しているが、できるだけロックをしない方向で意識している。勉強会等でスピーチロックやきつくならない言葉の指導を日々行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で取り上げ、虐待が起こることのないように啓発も行っている。入浴時の身体観察を行っている。グレーゾーンと言われている行為については、常に職員間で話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し学ぶ機会がある。成年後見制度については、必要時情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際、グループホームの趣旨を理解していただくよう努めている。家族、本人に見学して頂き、生活状況や今後発生すると思われる事柄について事前に対応を話し合い、契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会やサービス担当者会議、面会時など家族の意見が聞けるように努めている。毎月入居者状況報告者を送付して現在の状態を把握して頂いている。	連絡は基本管理者が行うようにしている。家族の面会時に相談したり、電話等で話をしたりしている。医療依存の強い利用者や家族には書面をもって話の内容に食い違いが生じないようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング、全体カンファレンス、リーダー会議、ユニットカンファレンス時に問題点や提案を聞き、職員間の話し合いの場を設けている。	カンファレンスやミーティングで出された意見や要望は、法人の全体会議や個人面談を介して経営側に吸い上げられる仕組みができている。介護部会も月1回あり、介護に関しての話し合いも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課によるフィードバック面接を行っている。1人1人の意見を聞き、より良い環境で仕事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月2回同じ内容で勉強会を行い、全員参加できる様努めている。新人、中堅、リーダー研修も行っている。外部研修は希望者を募って参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の勉強会や研修会にて交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と家族に施設内を見学して頂き不安なことや要望を伺い安心して入居していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の契約前、契約時に家族と話し合う時間を設け、要望、希望を伺っている。電話での相談も可能と伝えている。入居してからも面会、外出、外泊は自由であることを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人と家族に訪問して頂く時に、「今」本人、家族が抱えている不安を傾聴し、どんな支援が必要かを話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ないこと、出来るかもしれないこと、今までの習慣などを考慮し食事作りや家事などに一緒に参加して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月入居者状況報告書を送付し現在の生活状況を理解して頂き、面会時詳しく説明して情報交換している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回の外出リハビリ時、暮らした地域にドライブしたり年2回家族にあてた手紙を出す事で交流できる機会を設けている。法人内公園散歩時馴染みの方と交流している。	キーパーソンとなる人には本人が年賀状や暑中見舞いを書いて出している。利用者や職員は法人内での移動があるが、散歩の途中で寄っている。近隣の住民が寄ってくれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お互いの居室を行き来されたりしている。利用者の特徴、性格を把握し座席を考えている。孤立しない様に職員が介入したり、居室に閉じこもることのないように声掛けをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族からその後の報告があったり、相談を受けることもある。法人内で移動した場合は行事等で交流がある。ボランティアに來所してくれる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される際、今までの生活歴を理解した上で希望や意向の確認をしている。利用者本位の視点で把握する様努めている。	家族からの情報や日ごろの関わりの中から本人の思いを汲み取っている。新たな気づきはアセスメントシートに追加で記入し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時バックグラウンドアセスメントを記入していただき入居後の生活に反映できるよう努めている。入居後も情報収集を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や日誌で状況を確認している。個々に応じた生活が送れるよう日々の生活の中から情報収集し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニットカンファレンスにて話し合いの場を設け状況把握に努めている。本人、家族、栄養士、理学療法士が協力して介護計画を作成することもある。	3ヶ月と6ヶ月で見直しを行い、1年に1回は本人と家族がカンファレンスに参加して話し合っている。本人が好きな事を継続できるように、現状に則した介護計画を作成をしている。理学療法士のアドバイスをもらうこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人の状況を記録している連絡ノートを活用し、情報共有を行い、常に検討、改善を行っている。必要時にはケアプランの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の診療所医師による診察やかかりつけ医の継続診察も出来る。月2回の理美容もある。訪問マッサージや外部業者による受診助も受け入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のボランティアの受け入れを常に行っている。図書館の協力で利用者の作品を図書館や協働センターに掲示して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医に継続して受診できる。法人内医師による診察も可能。かかりつけ医と法人内医師との連携、かかりつけ医とグループホームとの連携も大切にしている。	敷地内に法人の医療機関があり、24時間の医療連携を取っている。かかりつけ医や専門医には本人の近況情報を持って家族が付き添い、受診後の情報は事業所でも共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤の為変化や気づきはすぐ報告できる。普段から健康面や医療面について相談出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は法人内医師の紹介状と介護経過を提出している。担当医、看護師、相談員と連絡を取り早期退院に努めている。入院中に訪問することで直接情報交換し、顔の見える関係に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人内に重度化した場合の施設があるため、グループホームでの対応が困難になってきた場合早めに法人内医師を交え本人、家族の意向を聞きながら必要な支援を行っている。	入居時に重度化や終末期における対応について説明をしている。事業所では看取りは行っていない。利用者に変化があった場合は、家族や医師・事業所で話し合い、事業所で可能な支援や重度化に対応する施設への移行等について説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを常に目の届くところに設置している。緊急時対応訓練や車両事故訓練なども定期的に行っている。隣接する法人内との連携体制も整備されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回地震、火災等昼間、夜間想定とあらゆる場面を想定した訓練を実施している。法人内の連携した訓練や消防署との訓練も実施している。職員は地域の防災訓練にも参加している。	避難訓練は2ヶ月に1回実施しており、2階から非常階段を使った避難や夜間想定訓練等を行っている。備蓄等は法人全体で連携しており、いざという時の災害に備えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応の仕方に気をつけ、自尊心を損なわない接し方をするようにしている。認知症である前に「人」であること、パーソンセンタードケアを意識した対応を心掛けている。	言葉使いやトイレ介助・入室の際のノック等、尊厳やプライバシーを損なわない対応を心がけている。プライバシーについての勉強会を行っているが、職員が共有しているかを書類で確認するまでには至っていない。	職員全員に周知されているか、勉強会終了後に確認する仕組みができることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事や趣味活動など「やりたい、やってみたい」という本人の思いを大切にし、自己決定出来るように促している。強制はしないよう気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、無理強いせず自分のペースで過ごしていただいている。その人らしい生活とは何かを常に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛着のある洋服や化粧品を使用されている。普段化粧をしない方も外出時やイベント時化粧を楽しまれている。行きつけの美容室に行く方や毛染めやパーマなどする方もいる。おしゃれ着は職員が手洗いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の配膳、盛り付けや下膳を職員と一緒にやっている。週1回の食事作りでは利用者が包丁やはさみを握って手伝っている。外出りハビリ時には何を食べたいか意見を出してもらい参考にしている。	裁縫が得意な利用者手作りの刺し子のランチョンマットを敷いて食事を楽しんでいる。コーラやコーヒー等、好みの飲物が個別に用意され、週1回利用者全員参加の食事作りの日がある。外食で回転寿司に行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を個人の状況に応じて個別対応したり、好みの飲み物を取り入れたり、食べやすい配置にしたり、介助したり、工夫しながら一人ひとりの様子を見て対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケア用品を提供しており、自分で磨いた後職員が確認、仕上げ磨きを行っている。毎食後介入し、自分で行える方も確認作業をしている。毎食前に必ずうがいを行う様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し排尿、便のパターンに合わせた誘導を行っている。尿パットの大小、失禁パンツ、布おむつ、ライナーなど利用者の状態に合わせた対応をしている。紙おむつの使用は最低限にしている。	個々の状態に合わせて布パンツやパット・紙パンツ等を使用し、声掛け誘導をしている。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。トイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に氷水を提供、家族に協力依頼し、ヨーグルトを提供、水分摂取量が少ない方には好みの飲み物を購入して頂き、飲むまで片付けないようにしている。運動や散歩、体操で体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の状況に合わせてゆったりと入浴できるようにしている。毎日入りたい方など希望も受け入れている。入浴拒否の方も時間をずらして声掛けしている。ゆず、みかん、菖蒲湯で楽しんでもらうこともある。	利用者の体調に合わせて、1日おきに午後入浴をしている。夏などは毎日の入浴も可能である。入浴を拒む利用者には、タイミングをみて声掛けしている。菖蒲湯やゆず湯・みかん湯等、工夫して入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具、室温、衣類等季節毎やその時の状況を考えて支援している。共同テレビの使用時間や、音量、人の声、扉の開け閉めなどにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服前に薬確認表で確認している。利用者の前で氏名、日付け、内服時間を読み上げて、飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドアセスメントや家族からの情報から、興味のあることを個々に提供している。コーヒーやジュース、お菓子を預り提供している。散歩以外の時間にも気分転換で散歩に付き添うこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出リハビリでは出来るだけ本人の希望に沿った場所への企画を考えている。毎週家族と外出される方もいる。希望者や戸外に出て気分転換が必要な利用者には個別対応している。	事業所の庭は日当たりが良く、花や野菜が育てられ、ベンチが置かれている。敷地内にも公園があり、気軽に散歩や外気浴ができる環境にある。毎日の散歩の他に、計画を立てて、月1回ユニットごとに、初詣や地元の観光地・祭り等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理している。入居者が安心のためお金を所持したいと希望される場合、家族と相談し、金額を決め持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも家族に電話をかける事ができる。携帯を持参している方については、充電の確認等も行っている。年賀状や暑中見舞いの記入の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾をしている。居室とトイレの色の区別や張り紙で分かりやすくしている。利用者の作品を玄関や廊下に展示している。玄関先では利用者と季節に合った花を育てている。	習字やフラワーアレンジメント等、週1回レクリエーションの日がある。居間で利用者一人ひとりがハサミを使って自由にフラワーアレンジメントを楽しむ姿が見られた。事業所内でも季節が感じられるように、作品は居室や玄関等に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同テレビの前にソファ、玄関先には畳の長椅子があり気の利用者同士会話している。共用空間では気の合う利用者同士が自分の席に座りながら会話できるように席を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や愛用品などそのまま持参して頂いている。思い出の写真や装飾品を置いている方もいる。行動スペースや安全面も配慮している。	居室は掃き出し窓で、開放感がある。使い慣れた家具を置いたり、写真や塗り絵など利用者の作品や趣味の物を飾ったりしている。安全で居心地良く過ごせる居室作りを支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋、トイレ、風呂には分かりやすい絵や表示、目印を貼り、自分で判断できるようにしている。利用者の状態に応じて工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100919		
法人名	医療法人社団 白梅会		
事業所名	グループホームハーモニー	ユニット名	2階
所在地	静岡県浜松市西区大人見町3011番地の1		
自己評価作成日	平成29年8月7日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2277100919-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハーモニーのケア方針「1日でも長く普通の生活を」を掲げ、住み慣れた地域で自由でゆったりとした、心地よい生活を送ることが出来る様に取り組んでいる。毎日の散歩や月1回の外出リハビリで戸外へ出たり、個々の趣味が継続できるようにサポートしている。「ここでの生活は楽しい」と思っていたり出来るようなグループホーム作りを目標に取り組んでいる。利用者一人一人の生活歴を把握しながら、支援方法を考えている。出来ることは自分で行い、役割を持ち自立した生活を送る事が出来る様にサポートしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場理念と介護理念を職員室に掲示し、毎朝のミーティング時に読み上げて理念の共有をしている。利用者のバックグラウンド(生活歴)を大切にしている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭り等地域が行なう催し物に利用者が参加されている。月1～3回大正琴や図書、踊りなどの地域ボランティアとの交流がある。地域の方が週2回ボランティアに来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して下さった方々との交流や、年2回の家族交流会にて普段の様子や活動を見て頂き、認知症の理解や協力をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。自治会長、婦人会長、民生委員、市職員、地域包括職員、家族代表、施設長、主任、介護職員が参加し、近況を報告し助言を頂いたことはサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや判断に困るような難しいことについては西区の介護保険課に連絡して助言を頂いている。市の長寿保険課職員に運営推進会議に参加して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや勉強会等で学び、意識の共有をしている。スピーチロックやドラッグロックも含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で取り上げ、虐待が起こることのないように啓発も行っている。入浴時の身体観察を行っている。グレーゾーンと言われている行為については、常に職員間で話し合いをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し学ぶ機会がある。成年後見制度については、必要時情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際、グループホームの趣旨を理解していただくよう努めている。家族、本人にも見学して頂き、生活状況や今後発生すると思われる事柄について事前に対応を話し合い、契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会やサービス担当者会議、面会時など家族の意見が聞けるように努めている。毎月入居者状況報告者を送付して現在の状態を把握して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング、全体カンファレンス、リーダー会議、ユニットカンファレンス時に問題点や提案を聞き、職員間の話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課によるフィードバック面接を行っている。1人1人の意見を聞き、より良い環境で仕事出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月2回同じ内容で勉強会を行い、全員参加できる様努めている。新人、中堅、リーダー研修も行っている。外部研修は希望者を募って参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の勉強会や研修会にて交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と家族に施設内を見学して頂き不安なことや要望を伺い安心して入居していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の契約前、契約時に家族と話し合う時間を設け、要望、希望を伺っている。電話での相談も可能と伝えている。入居してからも面会、外出、外泊は自由であることを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人と家族に訪問して頂く時に、「今」本人、家族が抱えている不安を傾聴し、どんな支援が必要かを話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ないこと、出来るかもしれないこと、今までの習慣などを考慮し食事作りや家事などに一緒に参加して頂けるように努めている。入居者同士の交流の援助もしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月入居者状況報告書を送付し現在の生活状況を理解して頂き、面会時詳しく説明して情報交換している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回の外出リハビリ時、暮らした地域にドライブしたり年2回家族にあてた手紙を出す事で交流できる機会を設けている。法人内公園散歩時馴染みの方と交流している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お互いの居室を行き来されたりしている。利用者の特徴、性格を把握し座席を考えている。孤立しない様に職員が介入したり、居室に閉じこもることのないように声掛けをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族からその後の報告があったり、相談を受けることもある。法人内で移動した場合は行事等で交流がある。ボランティアに來所してくれる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される際、今までの生活歴を理解した上で希望や意向の確認をしている。利用者本位の視点で把握する様努めている。希望を取り入れ自ら参加出来るように促している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時バックグラウンドアセスメントを記入していただき入居後の生活に反映できるよう努めている。入居後も情報収集を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や日誌で状況を確認している。個々に応じた生活が送れるよう日々の生活の中から情報収集し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニットカンファレンスにて話し合いの場を設け状況把握に努めている。本人、家族、栄養士、理学療法士が協力して介護計画を作成することもある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人の状況を記録している連絡ノートを活用し、情報共有を行い、常に検討、改善を行っている。必要時にはケアプランの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の診療所医師による診察やかかりつけ医の継続診察も出来る。月2回の理美容もある。訪問マッサージや外部業者による受診介助も受け入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のボランティアの受け入れを常に行っている。図書館の協力で利用者の作品を図書館や協働センターに掲示して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医に継続して受診できる。法人内医師による診察も可能。かかりつけ医と法人内医師との連携、かかりつけ医とグループホームとの連携も大切にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤の為変化や気づきはすぐ報告できる。普段から健康面や医療面について相談出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は法人内医師の紹介状と介護経過を提出している。担当医、看護師、相談員と連絡を取り早期退院に努めている。入院中に訪問することで直接情報交換し、顔の見える関係に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人内に重度化した場合の施設があるため、グループホームでの対応が困難になってきた場合早めに法人内医師を交え本人、家族の意向を聞きながら必要な支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを常に目の届くところに設置している。緊急時対応訓練や車両事故訓練なども定期的に行っている。隣接する法人内との連携体制も整備されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回地震、火災等昼間、夜間想定とあらゆる場面を想定した訓練を実施している。法人内の連携した訓練や消防署との訓練も実施している。職員は地域の防災訓練にも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応の仕方に気をつけ、自尊心を損なわない接し方をするようにしている。認知症である前に「人」であること、パーソンセンタードケアを意識した対応を心掛けている。人生の先輩であることを忘れないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事や趣味活動など「やりたい、やってみたい」という本人の思いを大切にし、自己決定出来るように促している。強制はしないよう気をつけている。いつでも話しやすい雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、無理強いせず自分のペースで過ごしていただいている。その人らしい生活とは何かを常に考えている。行事や予定は事前に報告している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛着のある洋服や化粧品を使用されている。普段化粧をしない方も外出時やイベント時化粧を楽しまれている。行きつけの美容室に行く方や毛染めやパーマなどする方もいる。おしゃれ着は職員が手洗いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の配膳、盛り付けや下膳を職員と一緒にしている。週1回の食事作りでは利用者が包丁やはさみを握って手伝っている。外出りハビリ時には何を食べたいか意見を出してもらい参考にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を個人の状況に応じて個別対応したり、好みの飲み物を取り入れたり、食べやすい配置にしたり、介助したり、工夫しながら一人ひとりの様子を見て対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケア用品を提供しており、自分で磨いた後職員が確認、仕上げ磨きを行っている。毎食後介入し、自分でもできる方も確認作業をしている。毎食前に必ずうがいを行う様にしている。歯科医との連携あり。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し排尿、便のパターンに合わせた誘導を行っている。尿パットの大小、失禁パンツ、ライナーなど利用者の状態に合わせた対応をしている。出来るだけ布パンツ着用継続できる様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に氷水を提供、家族に協力依頼し、ヨーグルトを提供、水分摂取量が少ない方には好みの飲み物を購入して頂き、飲むまで片付けないようにしている。運動や散歩、体操で体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の状況に合わせてゆったりと入浴できるようにしている。毎日入りたい方など希望も受け入れている。入浴拒否の方も時間をずらして声掛けしている。ゆず、みかん、菖蒲湯で楽しんでもらうこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具、室温、衣類等季節毎やその時の状況を考えて支援している。共同テレビの使用時間や、音量、人の声、扉の開け閉めなどにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服前に薬確認表で確認している。氏名、日付け、内服時間を読み上げて、飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドアセスメントや家族からの情報から、興味のあることを個々に提供している。コーヒーやジュース、お菓子を預り提供している。散歩以外の時間にも気分転換で散歩に付き添うこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出リハビリでは出来るだけ本人の希望に沿った場所への企画を考えている。何を食べたいか、どこに行きたいかを確認している。希望者や戸外に出て気分転換が必要な利用者には個別対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理している。入居者が安心のためお金を所持したいと希望される場合、家族と相談し、金額を決め持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも家族に電話をかける事ができる。携帯を持参している方については、充電の確認等も行っている。年賀状や暑中見舞いの記入の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾をしている。居室とトイレの色の区別や張り紙で分かりやすくしている。利用者の作品を玄関や廊下に展示している。玄関先では利用者と季節に合った花を育てている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同テレビの前にソファ、玄関先には畳の長椅子があり気の利用者同士会話している。共用空間では気の合う利用者同士が自分の席に座りながら会話できるように席を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や愛用品などそのまま持参して頂いている。思い出の写真や装飾品を置いている方もいる。行動スペースや安全面も配慮している。自分が作成した作品を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋、トイレ、風呂には分かりやすい絵や表示、目印を貼り、自分で判断できるようにしている。利用者の状態に応じて工夫している。		